

知床半島先端部の海岸台地における草原性鳥類

玉田克巳

北海道環境科学研究センター自然環境部自然環境保全科. 〒060-0819 北海道札幌市北区北19条西12丁目

知床半島は北海道の北東端に位置し、長さ約70kmの細長い半島である。半島中央部に連なる山脈の稜線を境界に、南東側が根室支庁管内羅臼町、北西側が網走支庁管内斜里町である。半島の大部分は国立公園や国指定鳥獣保護区などに指定されているほか、2005年7月にはユネスコの世界自然遺産に登録されるなど、世界的にもきわめてすぐれた自然環境が残された地域である。半島の先端部はとくに原始性の高い自然環境と多様な生態系が残されている地域で、知床国立公園の特別保護地区として、法令によって厳しく保護されているほか、知床国立公園知床半島先端部地区利用適正化基本計画（環境省自然環境局東北海道地区自然保護事務所2004）に基づき、公園利用に関するルールづくりが進められ、半島先端部への一般の立入りは規制されている。筆者はシカ *Cervus nippon* の生息数調査（梶ほか2005）の一環で、知床半島先端部へ立入る機会を得たため、海岸草原において鳥類のラインセンサスを行なった。本研究では、この調査結果を報告するとともに、この地域で1979年に調査を行なった中川（1981）の報告とあわせて、知床半島先端部に生息する草原性鳥類の生息状況をまとめた。また、1979年と2004年の調査結果を比較し、25年前と最近の鳥相変化を明らかにしたので報告する。

知床半島先端部は高さ20～40mの海食崖であり、その上部は台地となっている。半島の内陸部は針広混交林などの森林となるが、海食崖と森林の間には200～300mの幅の海岸草原が広がっており、鳥類の調査はこの海岸草原で行なった。調査コースは、文吉湾から海食崖を登った地点を起点とし、ここから海食崖沿いに知床岬の電波塔に至るまでの踏み分け道上の1.5kmで、その標高は約30mであった（図1）。起点の位置は、北緯42度20分、東経145度19分で、標準地域メッシュ（環境庁1997）ではコース全体が6645-42-06に含まれる。なお、中川（1981）は、電波塔からさらに南東側に500m進んだ灯台までの2kmの区間を調査コースとした。

ラインセンサスは2004年7月20日、4:25～5:10に実施した。この日の天候は曇りであった。調査は時速約2kmで歩きながら、調査コースの左右25m、合計50mの幅内で、目視もしくはさえずりで確認できた鳥種ごとの個体数を記録した。また25mより外側や調査の帰路で確認した鳥類は種名だけ記録した。調査にあたっては10倍の双眼鏡をもちいた。

知床半島先端部では、1980年代後半から1990年代後半にかけてシカが爆発的に増加し、これに

2007年3月22日 受理

キーワード: 知床半島先端部, 草原性鳥類, ラインセンサス

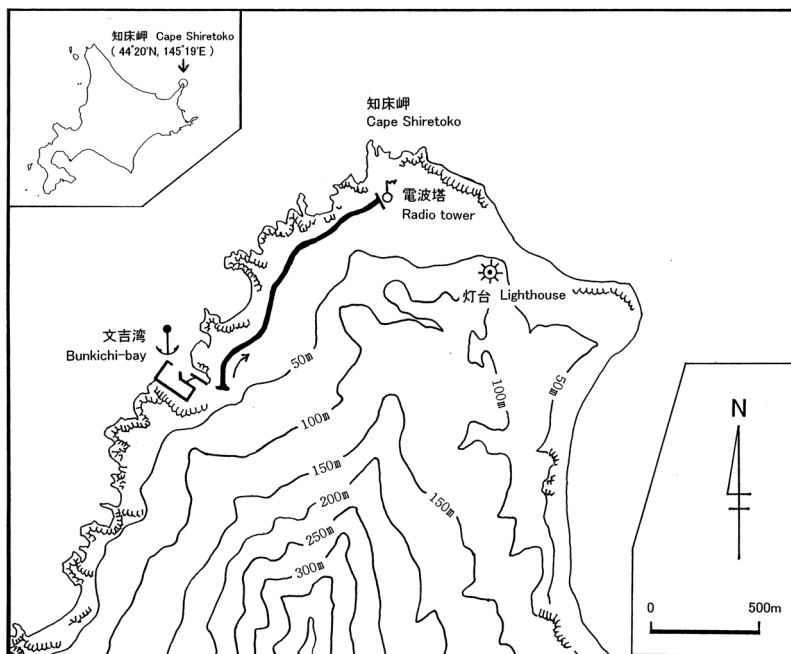


図 1. 調査地及び調査コース.

Fig.1. Study area and census route.

ともなって森林や草原の植生が大きく変化した(Kaji et.al. 2004, 常田ほか 2004, 梶ほか 2006, 佐藤・石川 2006). 先端部の海岸草原の植生は, 1980年以前にはガンコウラン *Empetrum nigrum* 群落, ヒメエゾネギ *Allium schoenoprasum* 群落, ススキ *Miscanthus sinensis* 群落, イワノガリヤス *Calamagrostis langsdoffii* 群落, クサヨシ *Phalaris arundinacea* 群落, エゾキシゲ *Hemerocallis lilioasphodelus* 群落, アキタブキ *Petasites japonicus* 群落, オオイタドリ *Polygonum sachalinense* 群落, オニシモツケ *Filipendula kamtschatica* 群落, オオヨモギ *Artemisia Montana* 群落, チシマザサ *Sasa kurilensis* 群落, クマイザサ *S. senanensis* 群落, シコタンザサ *S. yahikoensis* 群落が発達していた. しかし, 2000年にはエゾキシゲ群落, オニシモツケ群落が消失する一方で, シカが採食しないハンゴンソウ *Senecio cannabifolius* 群落, トウゲブキ *Ligularia hodgsonii* 群落, アメリカオニアザミ *Cirsium vulgare* 群落, また踏圧に強いエゾオオバコ *Plantago camtschatica*, オオバコ *P. asiatica* 群落が出現し, さらに風衝地ではガンコウラン群落が衰退して隣接していたヒメエゾネギ群落が拡大した. またクマイザサ群落, チシマザサ群落では群落高が低下した(常田ほか 2004).

今回の調査で確認した鳥類を表 1に示す. 調査幅50m内で確認したものは 8種で, 区域外や帰路で確認したものを加えると13種を記録した. 確認個体数が最も多かったのはアマツバメ *Apus*

表 1. 知床岬における鳥類ラインセンサスの結果(羽/km).

Table.1. Census result of grassland birds at Cape Shiretoko (Number of birds/kilometer).

種 Species	学名 Scientific Name	2004		1979	
		本研究	20-July	中川(1981)	29-May
ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>	*			
オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>			2.2	
オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>	1.3		2.8	2.3
ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	*			
キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	*			
ツツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>			*	
アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	12.7			26.9
ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>			2.2	1.5
イワツバメ	<i>Delichon urbica</i>	2.0		7.8	10.0
ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	*			
ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>			0.6	
モズ	<i>Lanius bucephalus</i>			0.6	
アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>			0.6	
ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>	1.3			2.3
ノビタキ	<i>Saxicola torquata</i>	3.3		1.1	0.8
イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	*			
エゾセンニュウ	<i>Locustella fasciolata</i>				0.8
シマセンニュウ	<i>Locustella ochotensis</i>	6.7			
ヒガラ	<i>Parus ater</i>			*	
シジュウカラ	<i>Parus major</i>			0.6	
ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>			*	
アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>			2.2	1.5
カララヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	9.3		17.2	4.6
ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>			1.1	
ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>			0.6	
ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	1.3		0.6	

*: 調査時間もしくは区域外で確認したもの.

*: Species detected outside of census plot or period.

pacificus で12.7羽/km, 次いでカララヒワ *Carduelis sinica* の 9.3羽/kmであった. 中川(1981)の結果とあわせると, この地域では27種の鳥類が確認されている. このうち, 灌木・草原をおもな生息場所とする種はオオジシギ *Gallinago hardwickii*, ヒバリ *Alauda arvensis*, モズ *Lanius bucephalus*, アカモズ *L. cristatus*, ノゴマ *Luscinia calliope*, ノビタキ *Saxicola torquata*, エゾセンニュウ *Locustella fasciolata*, シマセンニュウ *L. ochotensis*, アオジ *Emberiza spodocephala*, ベニマシコ *Uragus sibiricus* の10種であった. 一般的に北海道の草原に生息する種は, この10種のほかにカッコウ *Cuculus canorus*, マキノセンニュウ *L. lanceolata*, コヨシキリ *Acrocephalus bistrigiceps*, ホオジロ *E. cioides*, ホオアカ *E. fucata*, シマアオジ *E. aureola*, オオジュリン *E. schoeniclus* などである. ホ

オジロとホオアカは北海道東部では比較的生息数が少ない種であるため(日本野鳥の会 1980), 知床半島先端部において確認できなかったものと思われる。また、コヨシキリは低層湿原などを好む種で、マキノセンニュウ、シマアオジ、オオジュリンについても比較的湿潤な草原に多く生息する種である(高野 1980, 藤巻 2000)。知床半島先端部の植生は比較的乾燥した地域に発達する群落であるため、コヨシキリ、マキノセンニュウ、シマアオジ、オオジュリンが確認されなかったものと思われる。

灌木・草原性の鳥類で、1979年に確認され2004年に確認されなかった種はオオジシギ、ヒバリ、モズ、アカモズ、エゾセンニュウ、アオジ、ベニマシコの 7種であった。逆に1979年には確認されず、2004年に新たに確認された種はシマセンニュウである。ノビタキは両年ともに確認されているが、1979年は 5月に 1.1羽/km, 7月に 0.8羽/kmであったのに対し、2004年 7月は 3.3羽/kmで、確認数は増えていた。ノゴマとカワラヒワの2004年の確認数は、1979年に行なった 2回の調査結果とほぼ同様であり、個体数の増減はみられなかった。

オオジシギ、ヒバリ、モズ、アカモズは北海道のほかの地域でも減少が報告されている(北島・藤巻 2003, 川崎ほか1997, Haas & Ogawa 1995)。またシマセンニュウとノビタキの増加についても報告がある(川崎ほか1997, Tamada 2006)。このため、今回明らかになった鳥相の変化が、シカによる草原植生の変化に起因するものだけではなく、北海道全体で起こっている鳥相変化も反映しているものと考えられる。

知床半島は、国立公園、鳥獣保護区、世界遺産として貴重な生態系が残された地域で、その保全が世界的に注目されている地域である。佐藤・石川(2006)は、今後の知床半島の保全対策について、植物のみならずあらゆるレベルでの研究による現状把握を継続し、科学的根拠に基づく保護計画の策定が必要であると提案している。今回の調査結果から、半島先端部に生息する鳥類の変化についてその一部を明らかにすることができたが、調査はまだ十分ではなく、今後はさらなるモニタリングを実施し、科学的な視点にたった保全政策を推し進める必要があると思われる。

北海道環境科学研究センターの梶光一主任研究員(現東京農工大学教授)には今回の調査の機会を与えていただいた。また山中正実氏、小平真佐夫氏をはじめとする財団法人知床財団のスタッフには、調査実施にあたって多大な協力をいただいた。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

- 藤巻裕蔵. 2000. 北海道鳥類目録改訂 2版. 帯広畜産大学野生動物管理学的研究室, 帯広.
- Haas, C.A. & Ogawa, I. 1995. Population trends of Bull-headed and Brown Shrike in Hokkaido, Japan. In Shrikes *Laniidae* of the World : Biology and Conservation (eds. R. Yosef & F. E. Lohrer). Proceedings of the Western Foundation of Vertebrate Zoology 6: 72-75.
- 梶光一・岡田秀明・小平真佐夫・中西将尚. 2005. ヘリコプターを用いたエゾシカの生息数調査 生物多

- 様性調査 種の多様性調査(北海道)報告書. pp50-57. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田.
- 梶光一・岡田秀明・小平真佐夫・山中正実. 2006. 知床国立公園のエゾシカの群れ 管理方針と自然調節 世界自然遺産 知床とイエローストーン 野生をめぐる二つの国立公園の物語. pp43-55. 知床財団, 斜里.
- Kaji, K., Okada, H., Yamanaka M., Matsuda H. & Yabe T. 2004. Irruption of a colonizing sika deer population. J. Wildl. Manage. 68: 889-899.
- 環境庁. 1997. 都道府県メッシュマップ01北海道5. 環境庁自然保護局計画課自然環境調査室, 東京.
- 環境省自然環境局東北海道地区自然保護事務所. 2004. 知床国立公園知床半島先端部地区利用適正化基本計画. 環境省北海道地方環境事務所 ホームページ
<http://www.sizenken.biodic.go.jp/park/higashihokkaido/topics/21/>
- 川崎慎二・加藤和明・樋口広芳・高田令子. 1997. 北海道東部・春国岱の繁殖期の鳥類相の変化. Strix 15: 25-38.
- 北島幸恵・藤巻裕蔵. 2003. 北海道十勝平野におけるオオジシギ *Gallinago hardwickii* の生息数動向. 山階鳥学誌 35: 12-18.
- 中川元. 1981. 知床半島の鳥類調査報告 知床半島自然生態系総合調査報告書(動物篇). pp43-79. 北海道生活環境部自然保護課, 札幌.
- 日本野鳥の会. 1980. 鳥類繁殖地図調査1978. 日本野鳥の会, 東京.
- 佐藤謙・石川幸男. 2006. 知床半島の植生的自然と世界自然遺産の指定. 遺伝 60: 12-16.
- 高野伸二. 1980. 野鳥識別ハンドブック. 日本野鳥の会, 東京.
- Tamada, K. 2006. Population change of grassland birds over ten years in Nakashibetsu, eastern Hokkaido. Ornithol. Sci. 5: 127-131.
- 常田邦彦・鳥居敏男・宮木雅美・岡田秀明・小平真佐夫・石川幸男・佐藤謙・梶光一. 2004. 知床を対象とした生態系管理としてのシカ管理の試み. 保全生態学研究 9: 193-202.

Grassland birds at Cape Shiretoko, northern Japan

Katsumi Tamada

Natural Environments Conservation Section, Nature Conservation Department, Hokkaido Institute of
Environmental Sciences,

Kita 19 Nishi 12 Kita-ku, Sapporo, Hokkaido 060-0819, Japan

A line-transect census was conducted on July 20 2004 along a 1.5km route on the grassland of Cape Shiretoko, Hokkaido, northern Japan.

Eight bird species were recorded, in addition to which five species were detected out of the census period or area (25m on either side of the route).

Compared to the census data that were collected at the same site in 1979, seven grassland bird species (*Gallinago hardwickii*, *Alauda arvensis*, *Lanius bucephalus*, *L. cristatus*, *Locustella fasciolata*, *Emberiza spodocephala* and *Uragus sibiricus*) were not detected during this census. In 2004, however, *L. ochotensis* was confirmed, although it was not recorded in 1979. *Saxicola torquata* increased in number.

Keywords: Cape Shiretoko, Grassland birds, Line-transect census